

資料4-1  
平成30年度第3回  
事業評価委員会

# 空堀川整備事業 (武蔵村山市神明三丁目～ 同市中央二丁目)

平成30年10月26日(金)

建設局河川部

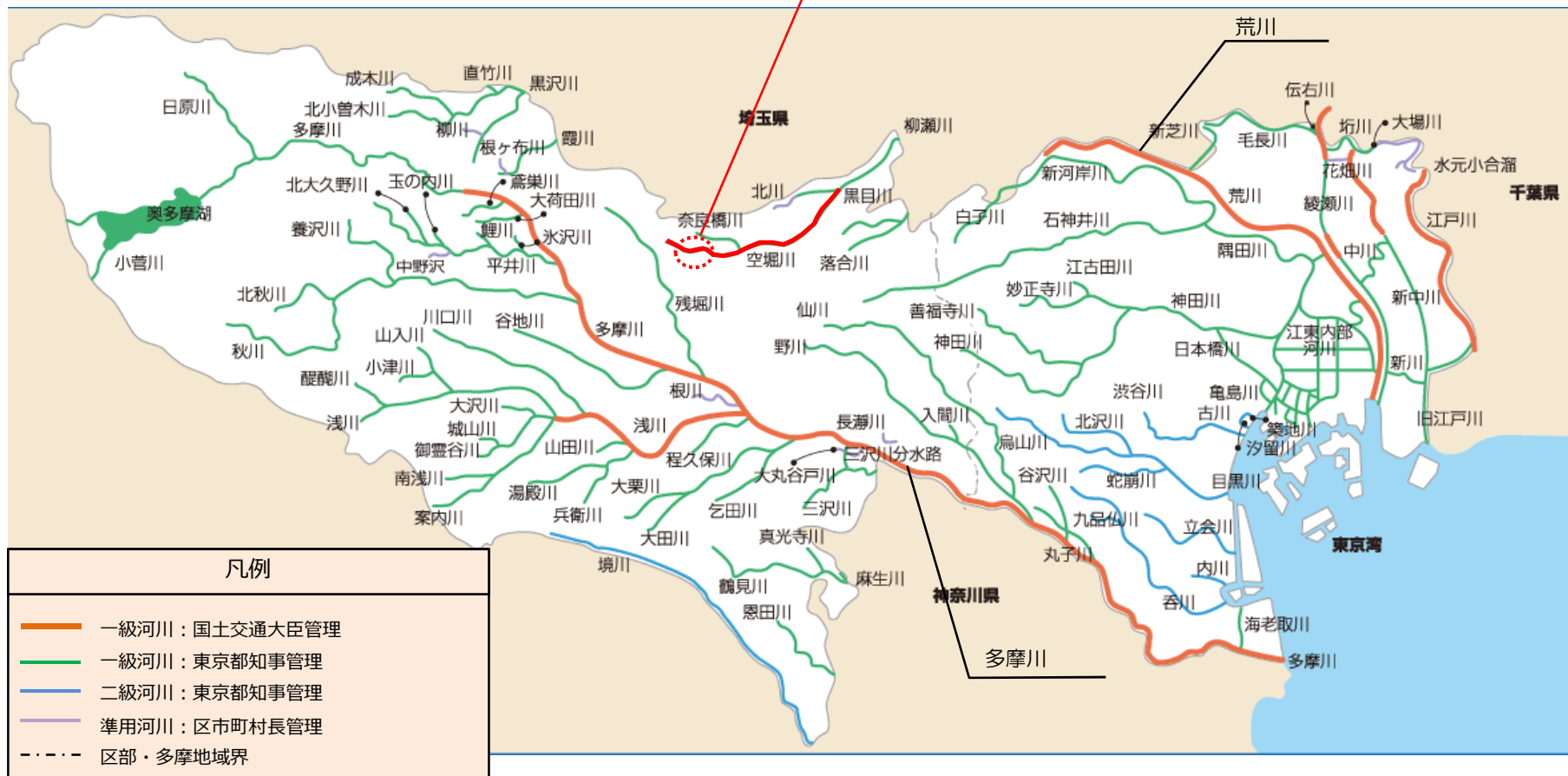
# 目次

1. 事業概要	.....	1
2. 社会経済情勢等の変化	.....	6
3. 事業の投資効果	.....	8
4. 事業の進捗状況	.....	12
5. 事業の進捗の見込み	.....	15
6. コスト縮減等	.....	16
7. 対応方針案	.....	17

# 1. 事業概要

## 位置図

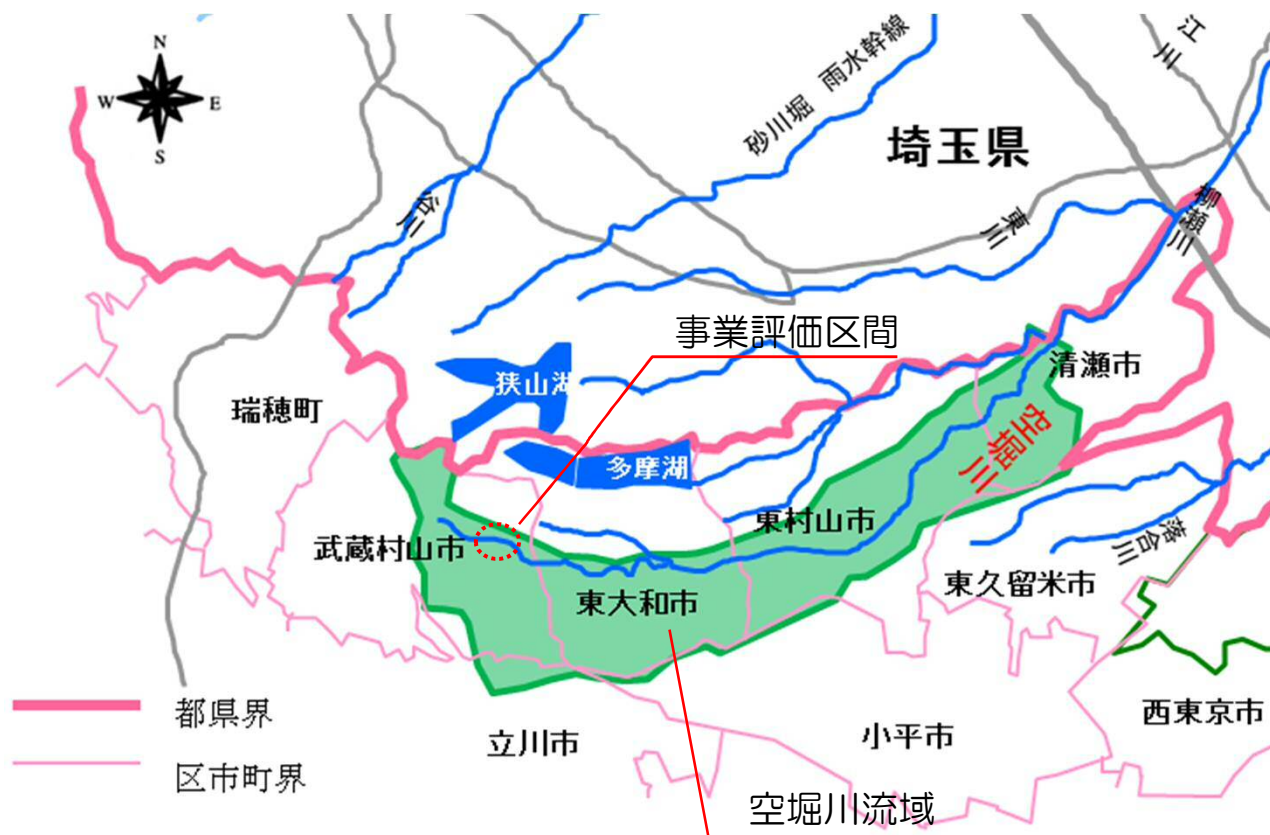
武蔵村山市神明三丁目（神明橋）～同市中央二丁目（中砂橋）



# 1. 事業概要

## 流域の概要

- 空堀川は、東京都内を流域として、狭山丘陵の武蔵村山市本町にある野山北公園付近に源を発し、東大和市高木付近で奈良橋川を合流し、東村山市の中央を貫流後、清瀬市中里で柳瀬川に合流する荒川水系の一級河川。



- 流域面積：26.8km<sup>2</sup>
- 法定延長：15.0km  
(うち整備延長14.0km)

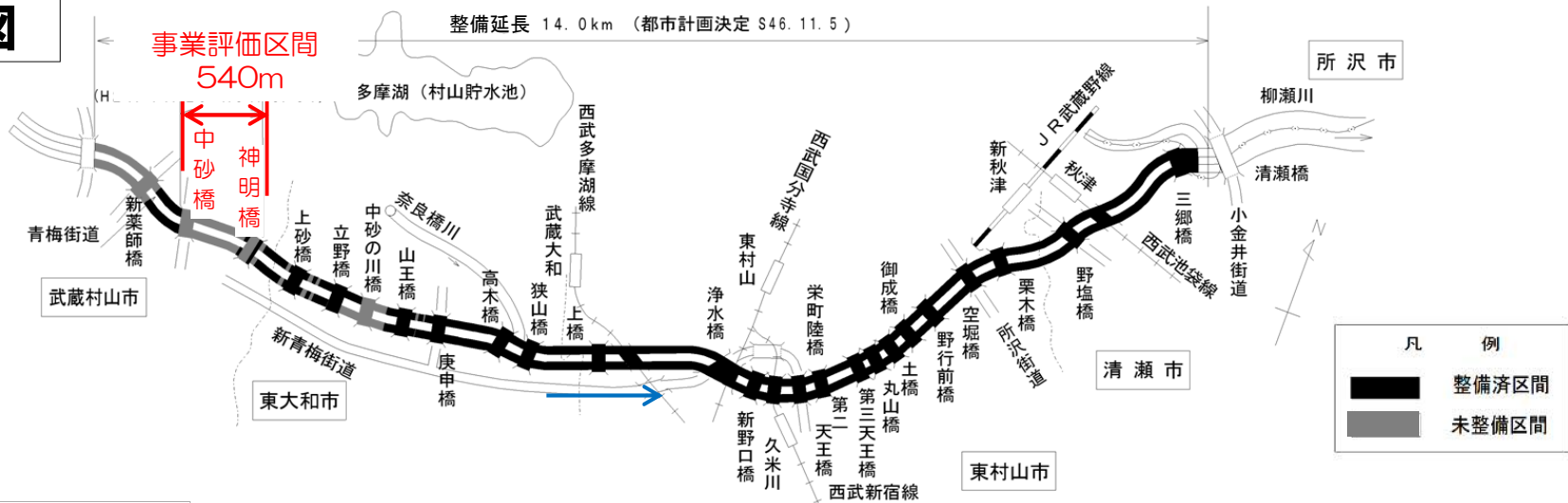
# 1. 事業概要

- 空堀川流域で発生する水害を軽減・防止し、都民の生命と財産を守るため、1時間50ミリの降雨に対応する護岸を整備。
- あわせて、人々が憩える川づくりを実施。

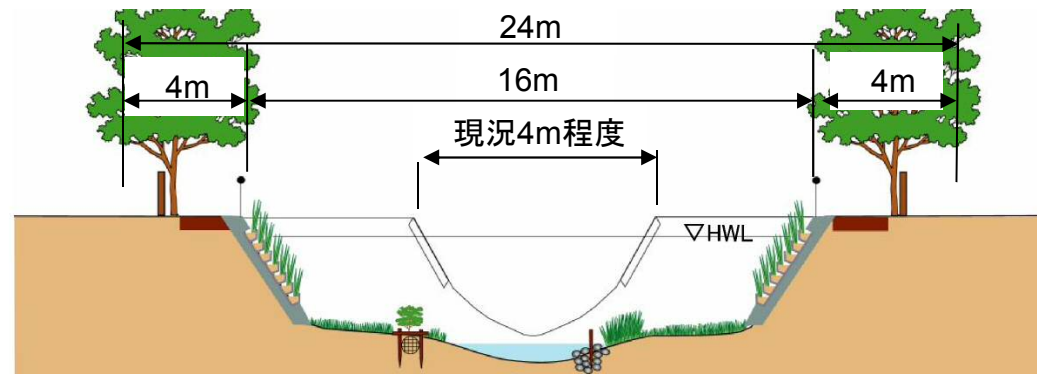
## 事業期間

平成21年度～平成30年度

## 箇所図

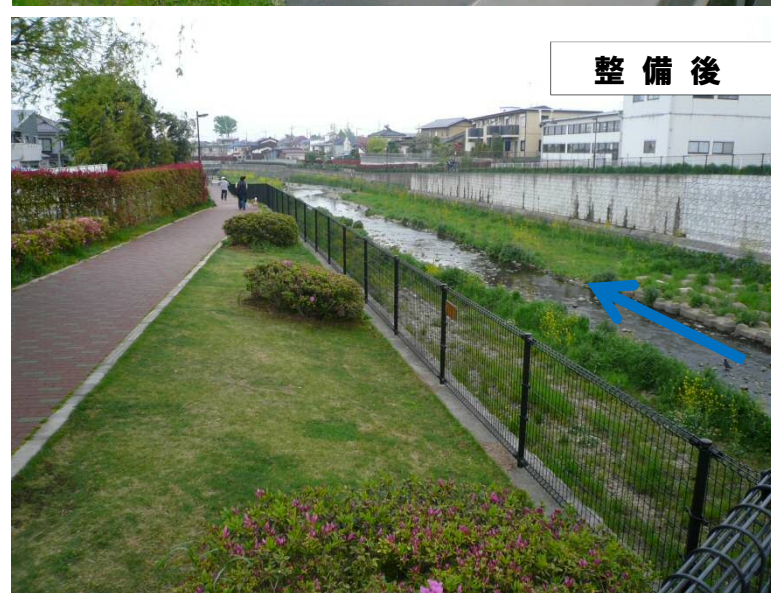


## 整備断面図



# 1. 事業概要

## 整備イメージ



# 1. 事業概要

## 経緯

年度	計画等
昭和46年	都市計画決定(当初)
平成18年	河川整備計画策定
平成21年	事業認可(当初)
平成25年	事業認可(最新)
平成30年	事業認可変更予定

# 2. 社会経済情勢等の変化

## 過去の災害実績



清瀬市中里 溢水状況(昭和52年8月)



24-6 集中豪雨 昭和52年8月19日 空堀川 清瀬市中里 溢水状況

東村山市 中橋 溢水状況 (平成11年8月)



武蔵村山市 中砂橋付近浸水状況 (平成28年8月)



東大和市 高木橋浸水状況 (平成11年8月)

年度	浸水回数	浸水面積	床上浸水	床下浸水	被害額 (千円)
S49~S63	18回	28.8ha	20棟	631棟	239,551
H1~10	14回	9.63ha	30棟	148棟	469,711
H11~20	6回	2.26ha	8棟	67棟	360,129
H22	2回	0.09ha	7棟	0棟	38,802
H28	1回	0.34ha	11棟	29棟	250,195



## 2. 社会経済情勢等の変化

### 災害発生危険性

本事業区間は、3年に1回程度発生する1時間50mm程度の降雨に対する安全度を有しておらず、計画規模の降雨があった場合には、水害が発生する恐れがある。

なお、平成28年の台風により中砂橋付近で溢水している。

【中砂橋下流の浸水状況（平成28年8月）】



平常時



浸水時

### 関連計画の変更（変更なし）

本事業区間は、柳瀬川流域河川整備計画に位置付けられている。

# 3. 事業の投資効果

## 定量的効果【費用対効果分析】

### 【河川改修事業に関する総便益（B）】

河川改修事業に係る便益は、洪水氾濫区域における家屋、農作物、公共施設等に想定される被害に対して、年平均被害軽減額を「治水経済調査マニュアル(案)」に基づき計上

- 現在価値化総便益額（B）  
約92.0億円の便益が発生

被害軽減効果①	約90.2億円
残存価値②	約1.8億円
総便益(①+②)	約92.0億円

### 【河川改修事業に関する総費用（C）】

河川改修事業に係る工事費、用地補償費及び維持管理費を計上

- 現在価値化総費用額（C）  
約33.6億円の費用が発生

工事費①	約12.6億円
用地補償費②	約17.5億円
維持管理費③	約3.5億円
総費用(①+②+③)	約33.6億円

### 【費用便益比（B/C）】

$$B/C = \frac{\text{便益の現在価値化の合計} + \text{残存価値}}{\text{建設費の現在価値化の合計} + \text{維持管理費の現在価値化の合計}} = 2.7$$

本整備により、約5haの氾濫を防ぐことが可能。

### 3. 事業の投資効果

#### 定性的効果 【内水被害軽減】

近年の局地的な集中豪雨等により、下水道の能力が不足している箇所などで浸水が発生している。



河川改修により、空堀川を放流先とする市の雨水排水管の接続が可能となるため、河川沿いの浸水被害だけでなく、市内の内水被害軽減に寄与する。



武蔵村山市大南5丁目付近の浸水状況（平成28年8月）

出典：第1回 空堀川流域広域雨水整備検討協議会幹事会  
資料1 現況調査結果・現況解析結果について

### 3. 事業の投資効果

#### 定性的効果 【親水性の向上】

市街化が進行する地域における河川の役割は、安全な街づくりと沿川の風景に調和した水辺の提供であるが、空堀川の未整備区間では、住宅が河道に近接し、植生が繁茂しており、人が安全に河川に近づけない状況にある。



河川改修に合わせ、親水空間等を整備することにより、地域住民の憩いの場、環境学習の場として利用することが期待できる。



河川管理用通路の緑化



旧河川敷を活用した親水広場

# 3. 事業の投資効果

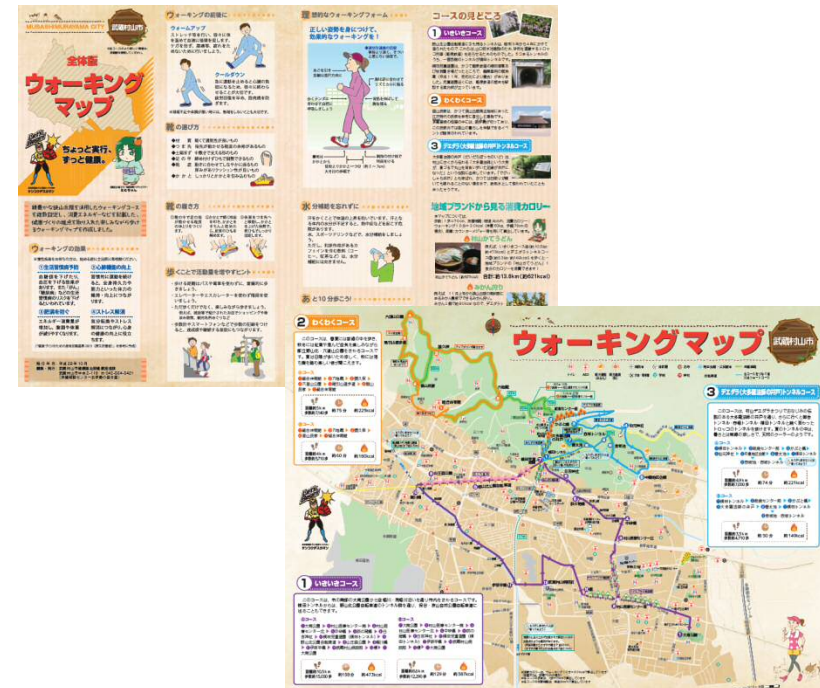
## 定性的効果 【市民の健康増進】

河川管理用通路を平常時の遊歩道として利用できる機能を持たせた整備を行うことで、ウォーキングに適した安全で安心して利用できる空間として市民の健康づくりに寄与する。



遊歩道としての機能を持つ  
河川管理用通路

## 空堀川を通り市内をまわるコース設定をしたウォーキングマップ



出典：武蔵村山市HP  
武蔵村山市 ウォーキングマップ

## 4. 事業の進捗状況

### 事業費の執行状況

	用地費	工事費	合計
全体事業費	2,170百万円	970百万円	3,140百万円
執行済額	1,038百万円	250百万円	1,288百万円
執行率	48%	26%	41%

### 用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
8,021 m <sup>2</sup>	7,341 m <sup>2</sup>	92%

## 4. 事業の進捗状況

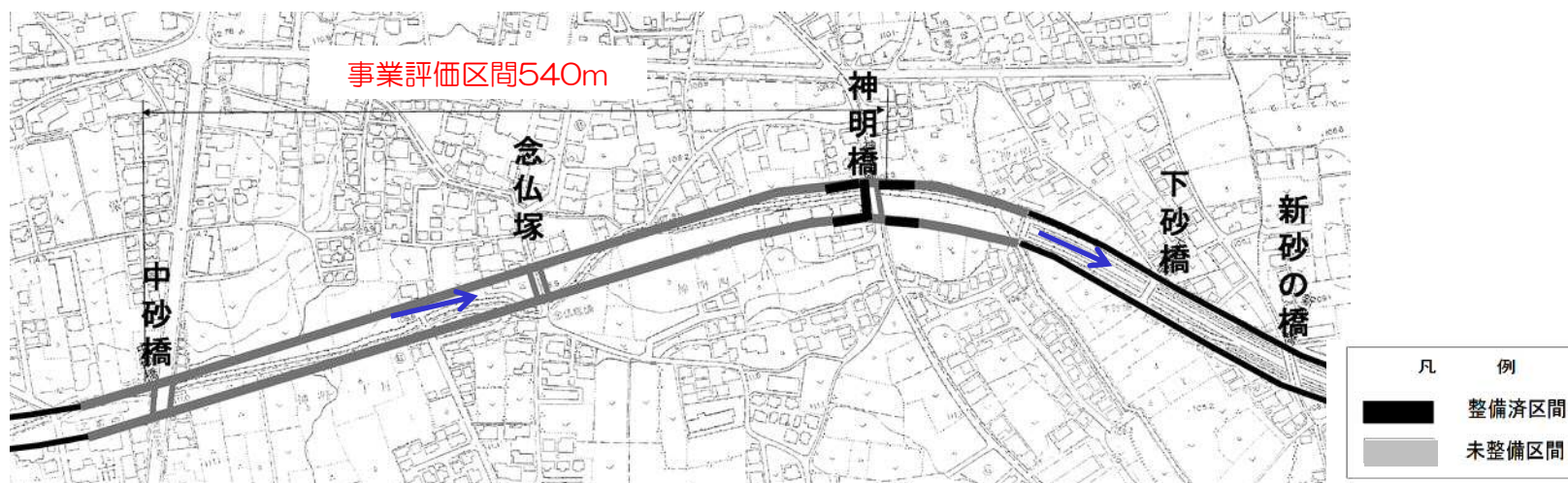
### 事業の進捗状況等

#### ○進捗率

- ・用地取得：平成22年度着手  
平成29年度末までの取得率約92%
- ・工事：平成29年度着手  
平成29年度末までの整備率約9%  
(全体延長540mのうち46m整備済み)

#### ○残事業

- ・用地取得 680㎡
- ・護岸整備 494m
- ・橋梁架け替え 3橋



## 4. 事業の進捗状況

### 一定期間を要した背景等

- 戸建住宅や畑がみられる地域であり、農地や借地など、各種調整に時間を要する案件があった。
- 当該区間は住宅密集地で、現場は狭隘な道路に囲まれ、アクセスする通路も少なく、工事用搬入路の確保に時間を要したため、工事着手が遅れたが、現在、確保できた下流側の搬入路口から工事を行っている。



狭隘な搬入路（念仏塚橋下流左岸）



狭隘な搬入路（念仏塚橋右岸）



## 5. 事業の進捗の見込み

### 今後の事業の進捗見込み

- 権利者との用地折衝においては、事業の必要性、水害の危険性を十分に説明し、早期の用地取得に向けて調整を進めていく。
- 用地取得が完了次第、順次、護岸改修工事を進めることができるため、進捗が見込まれる。



用地買収済箇所（中砂橋下流）



用地買収済箇所（神明橋上流）

## 6. コスト縮減等

### 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- 本事業は、河道流下能力の向上によって治水効果を発揮させるものであり、これまでの整備状況や周辺地域の開発現状を勘案すると、現計画に基づく事業執行が重要。

### コスト縮減の取組

- 空堀川の護岸改修工事については、これまでも、コストの縮減に努めながら事業を実施してきたが、今後も現場発生土の工事間利用（旧河川埋土等）を行い、処分に係る費用を縮減する等、コスト縮減に努めていく。



掘削土の工事間流用（旧河川を埋め戻し、散策路を整備）

## 7. 対応方針案

- ・近年、局地的な集中豪雨等が多発し、空堀川では絶えず水害が発生していることから、都市型水害の危険性は依然として高い。
- ・市街化地域に隣接した河川では、うるおいのある水辺の形成や、自然環境の保全・回復が求められている。



空堀川では、治水・環境の両面を向上するため、現計画に基づき事業を促進することが必要である。

**継 続**